

## 第5章 調査間の比較

---

---



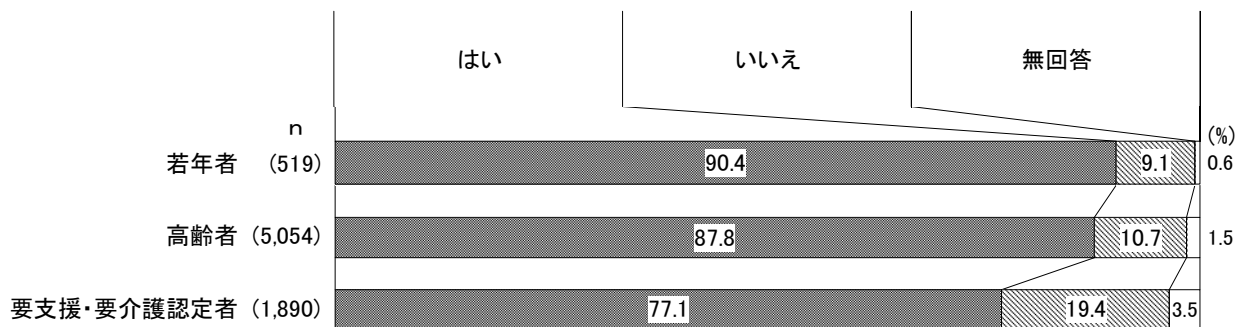
## 1. 身体状態や日常の生活状況について

### (1) 家族や友人・知人などに相談しているか

(若年者 P18、高齢者 P124、要支援・要介護認定者 P223)

#### 6. Q7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか。

若年者では「はい」が90.4%、高齢者では「はい」が87.8%、要支援・要介護認定者では「はい」は77.1%となっている。



### (2) 相談相手 (若年者 P20、高齢者 P124、要支援・要介護認定者 P223)

[Q7で「はい」と答えた方にお聞きします。]

#### 6. Q7-1 相談相手を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

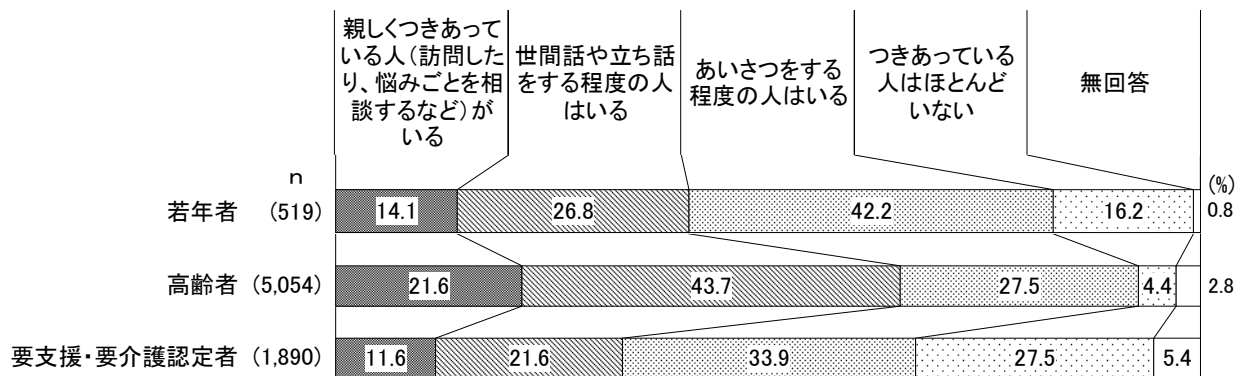
若年者と高齢者では「配偶者 (夫・妻)」が最も高く、要支援・要介護認定者では「娘」が最も高くなっている。また、「ケアマネジャー」は要支援・要介護者認定者で43.1%と際立って高い割合となっている。

	回答者数 (人)	配偶者 (夫・妻)	息子	娘	子の配偶者	兄弟・姉妹	友人・知人	となり近所の人	医師・歯科医師・看護師	民生委員	自治会・町内会	老人クラブ	社会福祉協議会	地域包括支援センター	在宅介護支援センター	ケアマネジャー	市役所・保健福祉センター	県の窓口 (保健所など)	その他	無回答
若年者	469	65.2	31.1	31.6	2.8	30.3	46.9	4.1	8.3	0.4	1.1	0.0	0.6	0.2	0.2	0.4	2.8	0.2	6.6	0.2
高齢者	4,438	66.5	48.1	49.3	12.1	29.3	37.7	11.9	17.7	0.9	2.5	1.5	0.6	0.8	0.4	1.1	3.3	0.5	1.5	0.4
要支援・要介護認定者	1,457	34.2	44.1	51.0	17.2	13.7	14.6	8.2	20.9	4.3	1.2	1.6	1.0	5.1	3.8	43.1	3.8	0.6	4.7	0.5

(3) 隣近所とのつきあい (若年者 P30、高齢者 P133、要支援・要介護認定者 P226)

Q14 あなたは、日ごろ、隣近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに〇)

「あいさつをする程度の人はいる」は若年者(42.2%)で最も高く、要支援・要介護認定者(33.9%)、高齢者(27.5%)の順となっている。「世間話や立ち話をする程度の人はいる」は高齢者(43.7%)で高い。



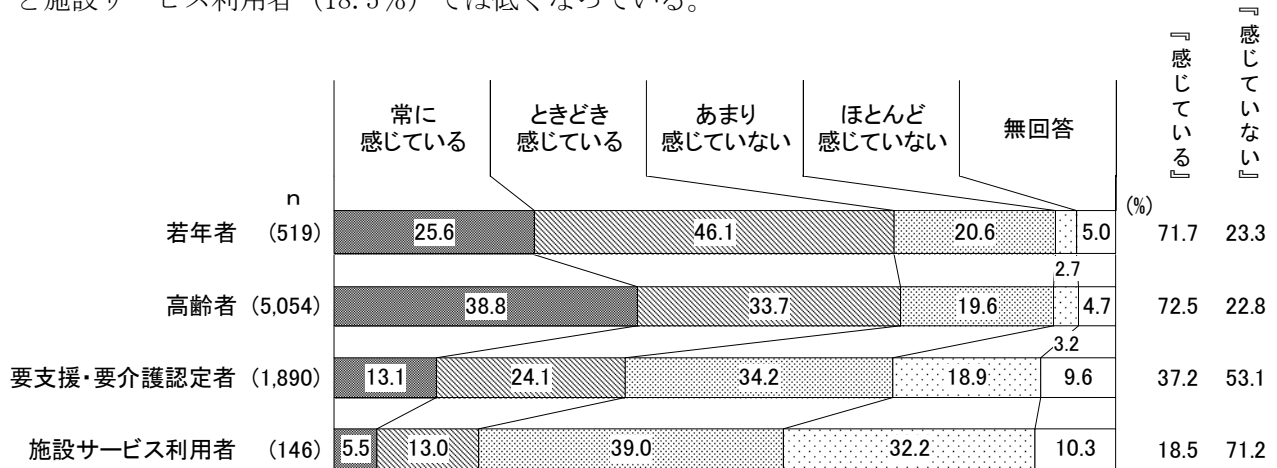
## 2. こころのハリと生きがい等について

### (1) 日常での生きがい

(若年者 P37、高齢者 P137、要支援・要介護認定者 P233、施設サービス利用者 P327)

Q1 日常生活を送る中で「こころのハリ」や「生きがい」を感じていますか。(1つに○)

『感じている』は高齢者(72.5%)と若年者(71.7%)でともに高いが、要支援・要介護認定者(37.2%)と施設サービス利用者(18.5%)では低くなっている。



### (2) 生きがいを感じること

(若年者 P39、高齢者 P140、要支援・要介護認定者 P235、施設サービス利用者 P328)

[Q1で「常に感じている」または「ときどき感じている」と答えた方にお聞きします。]  
Q1-1 あなたが、現在「こころのハリ」や「生きがい」を感じていることは、どんなことですか。(3つまでに○)

若年者では「働くこと(自営・家事等を含む)」が突出して高く、高齢者では「働くこと(自営・家事等を含む)」と「テレビやラジオの視聴」がほぼ同じ割合で並んで高くなっている。また、要支援・要介護認定者では「テレビやラジオの視聴」が突出している。施設サービス利用者は、他調査とは選択肢が大幅に異なっており、また回答者数が少ないため、参考として掲載する。

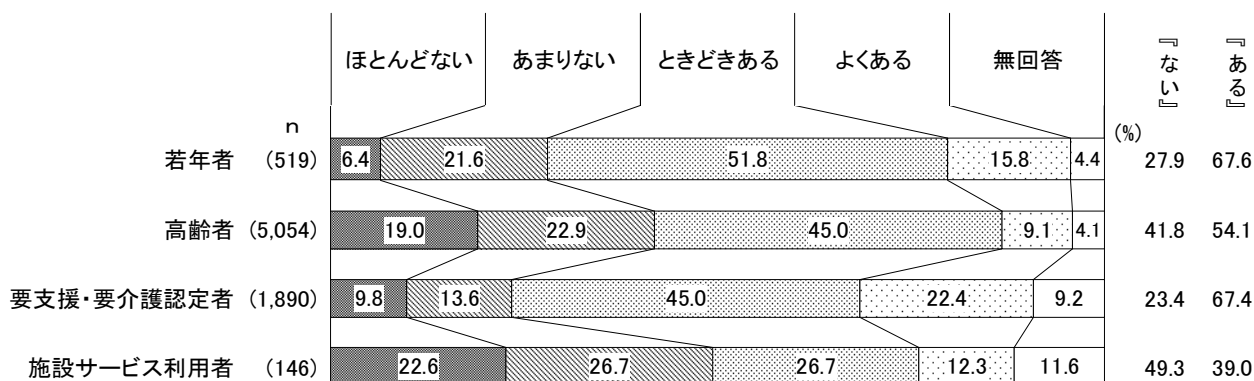
	回答者数(人)	働くこと(自営・家事等を含む)	家族の世話や介護	近所や友達とのつきあい	スポーツ・レクリエーション	自分の健康や体調に関すること	家族や友人とのふれあいに関すること	家族や友人とのふれあいに関すること	学習や趣味の活動	町会・自治会の活動	老人クラブの活動	ボランティア活動	おしゃべりや服装のコーディネート	家族との団らん	テレビやラジオの視聴	信仰に関すること	その他	特になし	無回答
若年者	372	59.7	16.1	21.0	22.3				23.9	1.9	0.0	1.6	13.7	39.8	17.7	4.3	5.9	0.0	0.0
高齢者	3,664	37.1	13.3	27.5	25.8				28.7	4.6	4.8	6.9	15.6	29.5	35.6	4.6	4.3	0.7	1.8
要支援・要介護認定者	704	9.5	10.4	22.4	4.8				20.6	1.8	5.3	1.3	16.8	35.7	53.8	8.4	7.7	3.6	3.3
施設サービス利用者	27					55.6	63.0	18.5				0.0	11.1		29.6	7.4	11.1		0.0

### (3) 生活での不安・心配

(若年者 P42、高齢者 P143、要支援・要介護認定者 P237、施設サービス利用者 P329)

Q2 現在、生活の中で不安になったり、心配になったりすることはありますか。(1つに○)

『ない』は施設サービス利用者(49.3%)で最も高く、若年者(27.9%)と要支援・要介護認定者(23.4%)ではほぼ同じ割合となっている。若年者、高齢者、要支援・要介護認定者では『ある』が『ない』を上回っており、要支援・要介護認定者で44.0ポイント、若年者調査で39.7ポイントの差となっている。一方、施設サービス利用者では『ない』が『ある』を10.3ポイント上回っている。



### (4) 不安・心配の内容

(若年者 P44、高齢者 P146、要支援・要介護認定者 P239、施設サービス利用者 P330)

[Q2で「ときどきある」または「よくある」と答えた方にお聞きします。]  
 Q2-1 不安になったり、心配になったりするのはどのようなことですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

若年者では「将来の自分の暮らしの先行き(生活設計など)について」が最も高くなっている。高齢者、要支援・要介護認定者、施設サービス利用者では「自分の体調や病気について」が最も高く、特に、要支援・要介護認定者では86.1%となっている。

	回答者数(人)	自分の体調や病気について	自分の介護について	家族の病気について	自分や身近な人が寝たきりや認知症になったときの介護について	身近な人が寝たきりや認知症になったときの介護について	現在の生活や家計について	将来の自分の暮らしの先行き(生活設計など)について	家庭や家族について	子育てについて	住居や住まいについて	財産や資産について	仕事について	人とのつきあいについて	こころのハリや生きがいについて	災害や緊急時の対応について	その他	無回答
若年者	351	51.3		28.5	35.6		43.3	62.1	28.8	9.4	24.2	16.8	33.0	11.7	13.1		1.4	0.3
高齢者	2,734	67.8		38.8	31.2		32.7	41.4	28.1	1.1	12.7	8.7	6.9	4.9	9.8	20.7	1.4	1.0
要支援・要介護認定者	1,274	86.1	45.4	26.6		11.5	27.6	33.4	20.1		11.5	8.4		6.4	17.0	26.5	2.1	2.1
施設サービス利用者	57	68.4					21.1	35.1	36.8		12.3	17.5		5.3	19.3	7.0	7.0	3.5

※施設サービス利用者は、「家庭や家族について」が「家庭や家族の生活について」

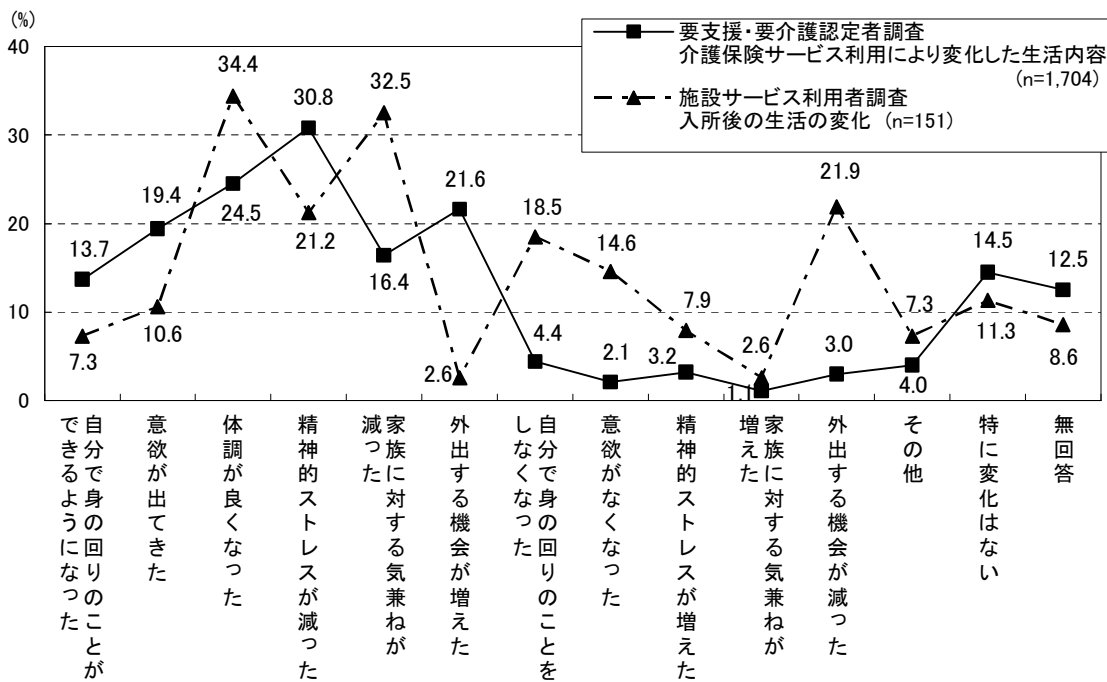
### 3. 介護保険サービスについて

#### (1) サービス利用・施設利用後の生活の変化

(要支援・要介護認定者 P246、施設サービス利用者 P319)

〔介護保険サービスを利用／施設に入所していると答えた方にお聞きします。〕  
 介護保険サービスを利用／施設に入所したことにより、あなたの生活に具体的にどのような変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

要支援・要介護認定者では「精神的ストレスが減った」が最も高く、施設サービス利用者では「体調が良くなった」が最も高い。



## 4. 介護保険や権利擁護の制度について

### (1) 介護保険制度について（若年者 P47、高齢者 P150、要支援・要介護認定者 P255）

Q1 あなたは、介護保険制度についてどの程度知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

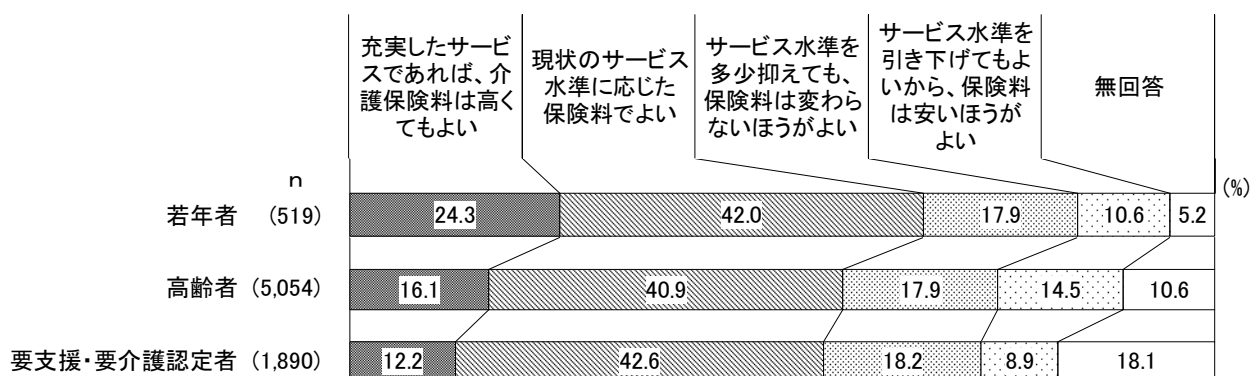
若年者では「原則として40歳以上の方全員が加入し、保険料を納める」が最も高く、高齢者では「65歳以上の方（第1号被保険者）の保険料は、市町村ごとに被保険者本人の所得や世帯の課税状況によって決まる」、要支援・要介護認定者では「介護保険のサービスを利用する場合、まず市に要介護（要支援）認定の申請をする」と「サービスを利用したときは、原則、かかった費用の1割を利用者が負担する」がほぼ同じ割合で高い。

	回答者数（人）	が原則として、40歳以上の方全員	のに課税状況に本料よつて決まる	65歳以上の方（第1号被保険者）	介護保険のサービスを利用する（要支援・要介護認定者）	額が異なるサービスの利用限度	要介護（要支援）認定区分に	原則が負担する費用の1割は	サービスを利用したときは、	を担う保険料にしている約半分の税金	介護保険とは、被保険者が割の納め	その他	知っていることはない	無回答
若年者	519	68.6	31.4	61.5	51.1	40.1	17.3	1.0	11.6	1.9				
高齢者	5,054	57.6	61.6	58.9	44.7	44.9	28.1	1.7	7.4	9.8				
要支援・要介護認定者	1,890	42.0	36.1	56.8	50.8	56.5	30.6	1.7	12.6	16.9				

### (2) 介護保険料の今後（若年者 P49、高齢者 P152、要支援・要介護認定者 P256）

Q2 現在、厚生労働省の試算では、「現行の介護保険サービスを維持する場合でも保険料は高くなる」といわれていますが、あなたが納めている介護保険料について次の4つの方針からあえて1つを選ぶとしたら、どれを選びますか。（1つに○）

「充実したサービスであれば、介護保険料は高くてもよい」は要支援・要介護認定者（12.2%）で低く、若年者（24.3%）で高くなっており、12.1ポイントの差がある。その他の項目では、3調査で大きな差はみられない。

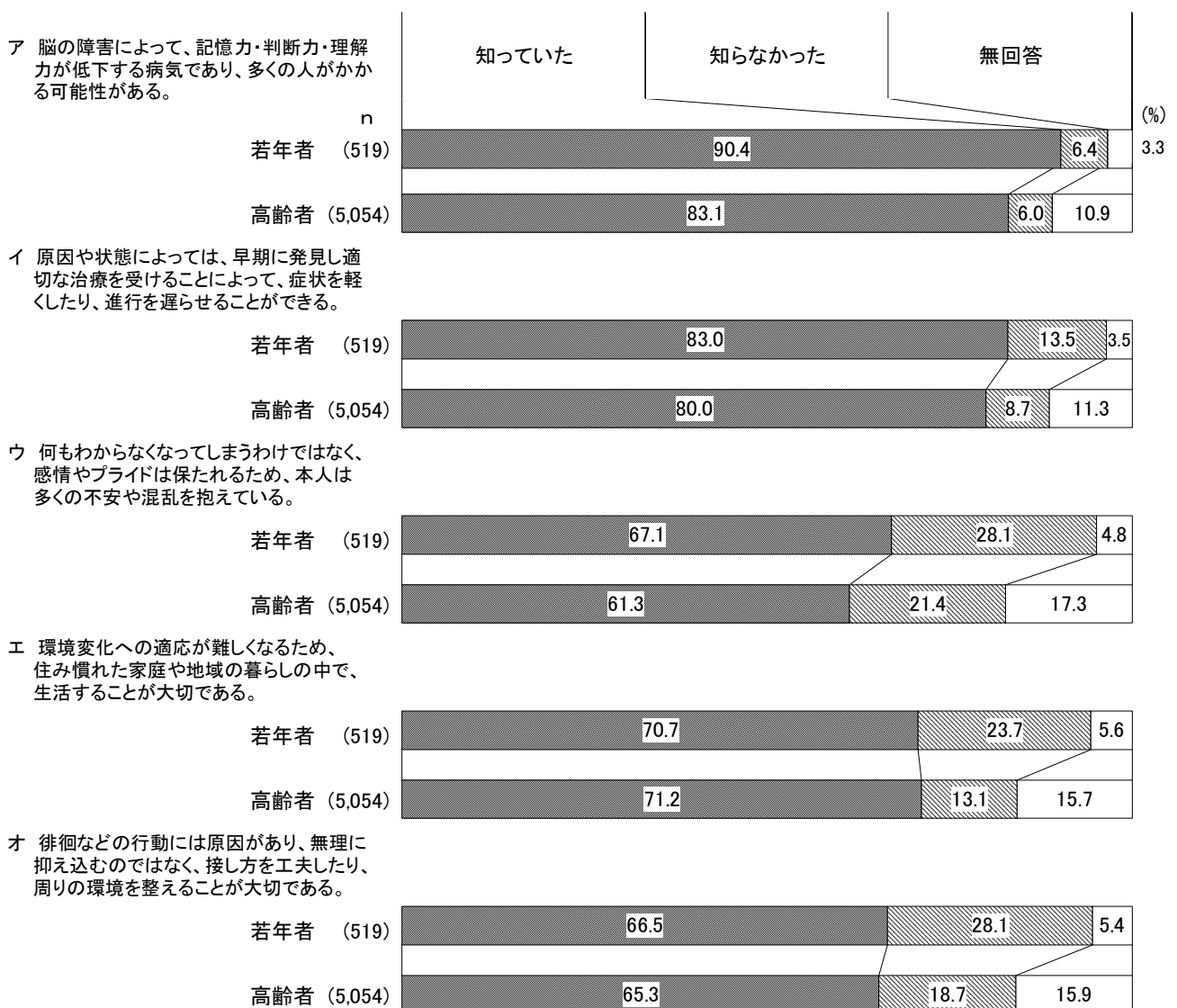




(3) 認知症に関する理解 (若年者 P51、高齢者 P154)

Q3 認知症は、多くの人がかかる可能性のある病気で、認知症の方やご家族を支える地域づくりが重要な課題となっています。あなたは、認知症に関する以下の内容を知っていますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

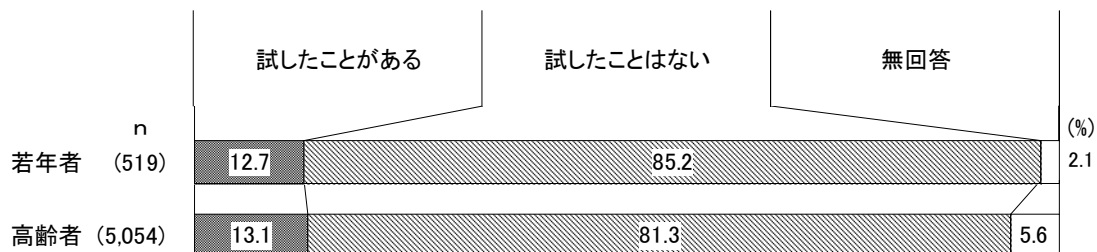
認知症に関する各内容の認知度について、「ア 脳の障害によって、記憶力・判断力・理解力が低下する病気であり、多くの人がかかる可能性がある」と「ウ 何もわからなくなってしまうわけではなく、感情やプライドは保たれるため、本人は多くの不安や混乱を抱えている」は若年者が高齢者よりも高く、それぞれ7.3ポイント、5.8ポイントの差がある。



(4) 認知症の予防法を試した経験 (若年者 P55、高齢者 P158)

Q 4 認知症の予防には、運動や食事など、生活習慣の改善をはじめとした予防法が考えられていますが、あなたは試したことがありますか。

若年者と高齢者では大きな差はみられない。

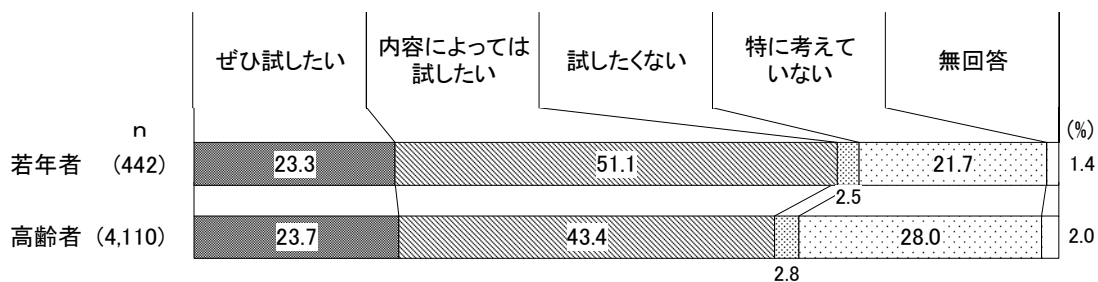


(5) 認知症予防について (若年者 P56、高齢者 P159)

〔Q 4で「試したことはない」と答えた方にお聞きします。〕  
 Q 4-1 その予防法に効果があるとしたら、あなたは試してみたいと思いますか。(1つに○)

「内容によっては試したい」は若年者 (51.1%) が高齢者 (43.4%) よりも7.7ポイント高くなっている。

一方、「特に考えていない」は高齢者 (28.0%) が若年者 (21.7%) よりも6.3ポイント高くなっている。



## (6) 権利擁護の制度や仕組み

(若年者 P58、高齢者 P160、要支援・要介護認定者 P259、施設サービス利用者 P331)

Q5 あなたは、高齢者が安心して暮らせるための権利擁護の制度や仕組みを知っていますか。  
(知っているものすべてに○)

それぞれの制度や仕組みを知っている割合は、要支援・要介護認定者と施設サービス利用者で低くなっている。一方、「知っているものはない」は施設サービス利用者、要支援・要介護認定者で高くなっている。

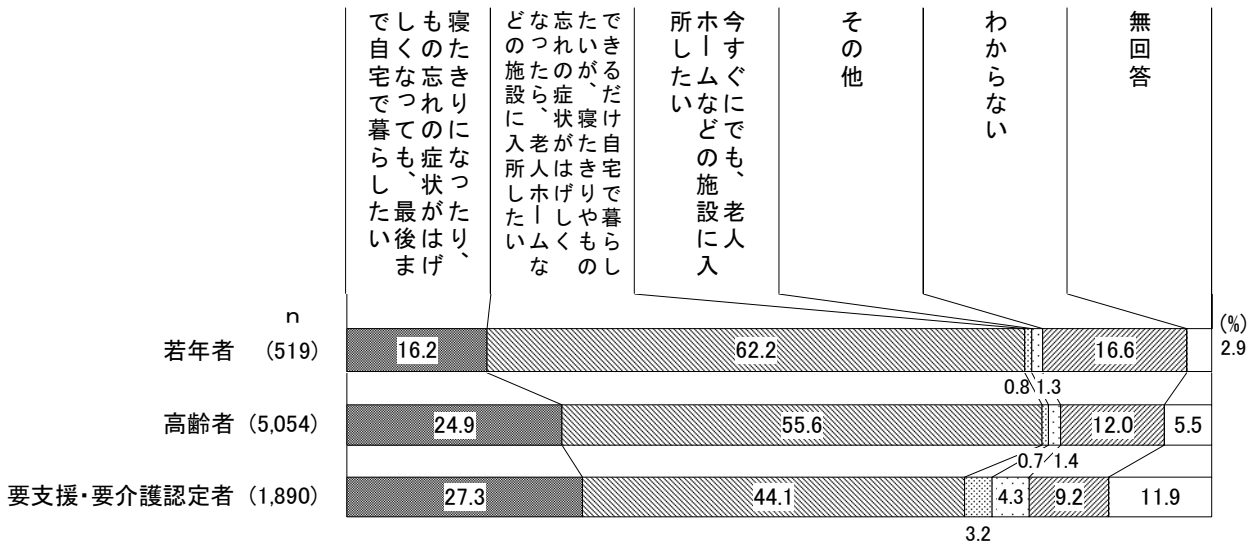
	回答者数 (人)	日常生活自立支援 事業(地域福祉)	成年後見制度	市民後見人の活動	松戸市高齢者虐待 防止ネットワーク	クルーリングオフ制 度	知っているものは ない	(%) 無回答
若年者	519	31.0	46.2	10.6	14.3	75.7	11.8	5.8
高齢者	5,054	31.9	44.5	14.2	17.2	62.9	13.5	14.9
要支援・要介護認定者	1,890	19.5	27.5	8.6	11.3	38.0	26.7	26.0
施設サービス利用者	146	17.1	21.9	3.4	8.9	33.6	31.5	28.1

## 5. 今後の生活について

### (1) どのように暮らしたいのか (若年者P60、高齢者P162、要支援・要介護認定者P260)

Q1 あなたは、今後の生活について、どのようにお考えですか。(1つに○)

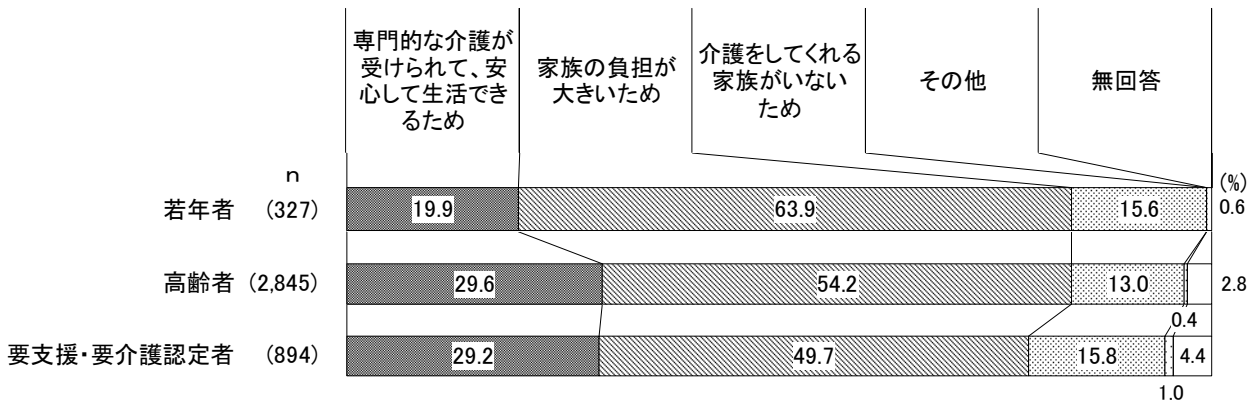
「できるだけ自宅で暮らしたいが、寝たきりやもの忘れの症状がはげしくなったら、老人ホームなどの施設に入所したい」は若年者(62.2%)で最も高く、要支援・要介護認定者(44.1%)で低くなっている。また、「寝たきりになったり、もの忘れの症状がはげしくなっても、最後まで自宅で暮らしたい」は要支援・介護認定者(27.3%)で最も高く、若年者(16.2%)で低くなっている。一方、「わからない」は若年者(16.6%)で他と比べて高くなっている。



### (2) 施設希望の理由 (若年者 P63、高齢者 P165、要支援・要介護認定者 P264)

[Q1で「できるだけ自宅で暮らしたいが、寝たきりやもの忘れの症状がはげしくなったら、老人ホームなどの施設に入所したい」または「今すぐにでも、老人ホームなどの施設に入所したい」と答えた方にお聞きします。]  
 Q1-1 施設等を希望される(ご自宅での生活を希望しない)最も大きな理由は何ですか。(1つに○)

「家族の負担が大きい」は若年者(63.9%)で最も高く、要支援・要介護認定者(49.7%)で低くなっている。「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるため」は高齢者(29.6%)と要支援・要介護認定者(29.2%)でほぼ同じ割合となっており、若年者(19.9%)と約10ポイントの差がある。



## 6. 市に期待すること

### (1) 市に期待すること（若年者 P66、高齢者 P168、要支援・要介護認定者 P267）

Q1 あなたが今後、介護に関して市に期待することは何ですか。（3つまでに○）

若年者と高齢者では「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やしてほしい」が最も高くなっている。要支援・要介護認定者では「困ったときに気軽に相談できる場所を増やしてほしい」と「施設の空き状況などの情報を提供してほしい」がほぼ同じ割合で高くなっている。

(%)

	回答者数 (人)	介護保険制度について詳しく説明してほしい	介護保険サービスに関する情報を提供してほしい	施設情報の提供状況など	介護サービスの申し込みも取り入れたい	介護保険サービスの申し込みを強化してほしい	介護保険サービスの申し込みを促進してほしい	介護相談所を増やしてほしい	その他	特になし	無回答
若年者	519	37.8	36.0	38.9	16.8	14.3	56.3	6.4	9.8	3.9	
高齢者	5,054	47.3	40.3	31.2	13.6	15.0	58.8	2.8	7.5	6.2	
要支援・要介護認定者	1,890	24.0	18.3	30.4	16.0	12.1	32.8	1.3	12.7	19.9	

(2) 保健・医療・福祉サービス (若年者 P68、高齢者 P170)

Q2 あなたは、かりに、自分が高齢などのために身の回りのことが自分で十分にできなくなったとき、どんなサービスが必要だと思いますか。／あなたは、高齢者に対するサービスはどのようなものが必要だと思いますか。(5つまでに○)

若年者と高齢者で最も差が大きいものは「ほとんど収入がなく、独立した生活に不安がある高齢者が無料もしくは低料金で入所できる養護老人ホーム」である。

		(%)																		
	回答者数(人)	要支援・要介護状態になるおそれのある65歳以上の方に対して行う介護予防事業(運動器の機能向上教室・低栄養予防教室・口腔ケア教室・物忘れ防止教室)	閉じこもり予防のための移送サービス	養護老人ホーム	ほとんど収入がなく、独立した生活に不安のある高齢者が無料もしくは低料金で入所できる養護老人ホーム(ケアハウス)	ある程度の収入はあるが、独立した生活に不安のある高齢者が低料金で入所できる軽費老人ホーム	食事や掃除などの日常生活上のサービスを受けられる有料老人ホーム	市内1ヶ所の在宅介護支援センターで行っている、認知症や寝たきりの相談を含めた高齢者の総合的な相談	療・福祉・介護の総合的な相談	市内3ヶ所の地域包括支援センターで行っている、認知症や寝たきりの相談を含めた保健・医療・福祉・介護の総合的な相談	等々の介護や食事などの手伝いをするホームヘルプサービス	介護が必要な高齢者などの家庭を訪問し、排泄等の介護や食事などの手伝いをするホームヘルプサービス	食事の用意が困難な高齢者に食事を届ける配食サービス	介護が必要な高齢者などの家庭を訪問し、浴槽の提供と入浴の介助をする訪問入浴サービス	医師や看護師などによる在宅医療サービス	必要に応じて、かかりつけの医師が往診し自宅で診察してもらえるサービス	歯科医師による訪問歯科診療	薬剤師による訪問薬剤管理指導	心身の機能回復のため、家庭に訪問してもらったり、施設に通って受けるリハビリテーション	介護が必要な高齢者に、日帰り入浴や食事、リハビリなどを提供するサービス(デイサービス)
若年者	519	17.0	9.6	48.0	34.5	9.6	6.9	5.2	20.4	33.5	10.6	22.4	16.2	6.4	1.3	8.3	15.2			
高齢者	5,054	18.9	4.8	34.8	39.5	9.3	7.1	8.4	17.1	29.2	10.3	24.4	18.4	4.4	1.2	5.6	14.7			

		(%)														
	回答者数(人)	介護が必要な高齢者などを短期間(1週間くらい)あずかつて世話をするサービス(ショートステイ)	自宅で介護するために必要な福祉用具(特殊ベッド、車いすなど)の貸し出し	自宅で生活しやすいように、居室に手すりやスロープ等を設置する住宅改修サービス(介護保険サービス)	おむね65歳以上の日常生活に介護を要する高齢者の生活や介護が便利になるようトイレや浴室等を改造する場合、資金の一部を助成する制度(介護保険外)	夜間に対応してもらえらる訪問介護サービス	小規模な施設で、日帰り入浴や食事したり、リハビリなどを受けるサービスを中心に、自宅に訪問してもらえたり、時にはその施設に宿泊したりしながら、在宅での生活を継続できるようにするサービス	認知症で介護が必要な高齢者が、共同生活をしながら介護を受けるグループホーム	常時介護を必要とする人が入所する特別養護老人ホームにおける施設介護サービス	リハビリ等を必要とする人が入所する老人保健施設における施設介護サービス	在宅介護者への支援サービス(紙おむつの支給や・介護慰労金の支給)	徘徊高齢者が所在不明になったとき、居所を見つけてくれる徘徊探索サービス	急病等の緊急事態に対応するための緊急通報装置の貸与	75歳以上の単身世帯・高齢者世帯や要支援・要介護認定を受けた単身世帯の方に対しての家屋の軽微な修理、窓ふきなどのサービス(軽度生活援助)	その他	無回答
若年者	519	19.3	14.6	7.7	8.5	13.7	26.2	11.8	14.1	6.6	10.8	4.2	14.1	5.8	1.9	3.7
高齢者	5,054	18.7	12.5	7.5	9.3	8.2	20.5	7.4	8.7	4.6	8.4	4.3	11.8	8.6	1.6	12.8



(5) 充実すべき高齢者施策 (若年者 P72、高齢者 P174)

Q5 あなたは、今後、どのような高齢者施策を充実すべきだと思いますか。(3つまでに○)

若年者と高齢者で最も差が大きいものは「シルバー人材センターや高齢者無料職業紹介所事業など、就労促進に関する施策」である。

	回答者数(人)																(%)		
		いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策	生涯学習大学や各種教養講座などの学習機会の提供の場を設ける施策	健康相談や介護予防教室など要支援・要介護にならないための施策	配食サービス、移送サービスなど、日常生活を支援する施策	オムツ等の支給や介護者が介護疲れから休息できるサービスなど、介護する人を支援する施策	シルバー人材センターや高齢者無料職業紹介所事業など、就労促進に関する施策	緊急通報装置の設置や訪問電話など、ひとり暮らしの高齢者が安心して生活するための施策	認知症の高齢者を支援する施策	敬老祝金や町会等での敬老事業への支援などの施策	毎月1、6、16、26日の4日間、市内8ヶ所の公衆浴場の入浴料を200円(通常420円)とすることにより、入浴を通じた交流を楽しんでもらうための施策	医療費の自己負担分や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策	高齢者向けの住宅や家賃補助事業などの住宅施策	ご長寿ハッピーコンテストや良い歯のコンクールなどのイベントの実施により、健康で自立した生活を営む高齢者を増やす施策	老人ホームなどの施設を増やす施策	ホームヘルプサービスなど在宅で介護を受けるためのサービスを充実させる施策	その他	わからない	無回答
若年者	519	22.7	13.1	22.9	27.0	24.5	24.7	20.2	11.9	0.8	2.9	32.2	9.2	0.8	16.4	25.6	1.5	3.5	3.7
高齢者	5,054	29.9	11.4	25.6	21.7	15.5	9.5	20.9	8.7	3.8	4.2	27.4	7.5	1.6	13.9	21.9	0.9	4.4	12.0

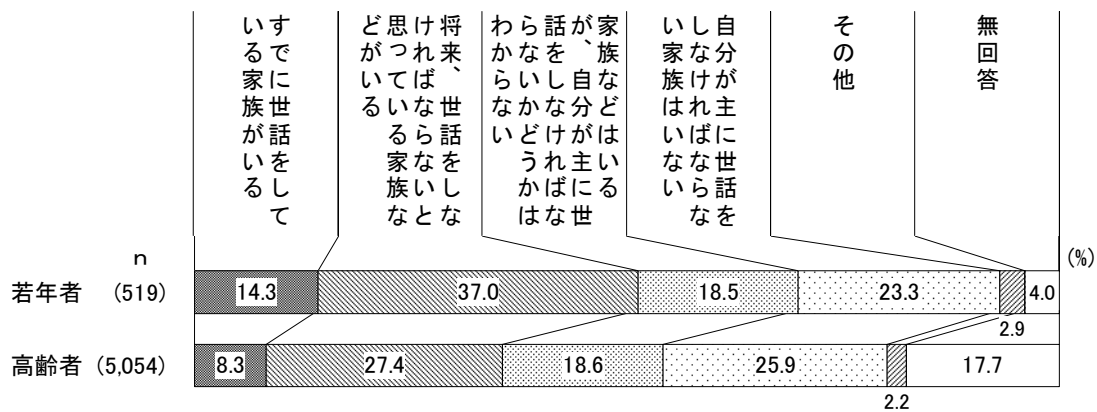


## 7. 介護者としての状況について

### (1) 世話をすべき家族 (若年者 P75、高齢者 P176)

Q1 現在、老後の世話をしている家族、または将来、世話をしなければならないと思っている家族などはいますか。(1つに○)

「将来、世話をしなければならないと思っている家族などがある」は若年者(37.0%)が高齢者(27.4%)よりも9.6ポイント高く、「すでに世話をしている家族がいる」でも若年者(14.3%)の方が6.0ポイント高くなっている。



### (2) 老後の世話をしている家族、または将来世話をしなければならない家族との関係 (若年者 P78、高齢者 P179)

[Q1で「すでに世話をしている家族がいる」～「家族などがあるが、自分が主に世話をしなければならないかどうかはわからない」と答えた方にお聞きします。]

Q1-1 あなたと、その家族はどのようなご関係ですか。(あてはまるものすべてに○)

若年者では「あなたの親」が最も高く、「配偶者(夫・妻)」と「あなたの配偶者の親」が並んでおり、高齢者とは「あなたの親」で43.5ポイント、「あなたの配偶者の親」で20.3ポイントの差となっている。一方、高齢者では「配偶者(夫・妻)」が突出しており、若年者とは43.4ポイントの差がある。

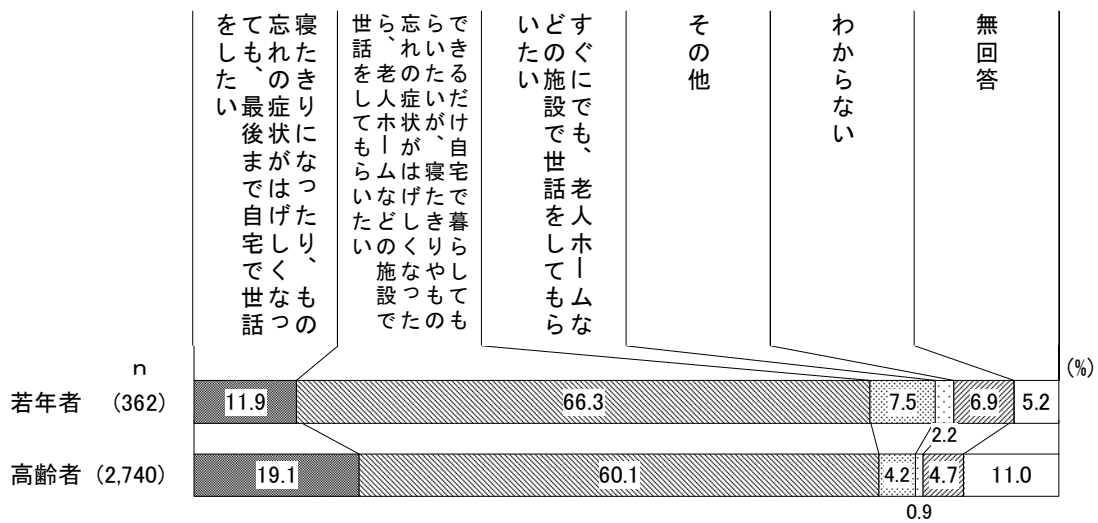
	回答者数(人)	配偶者(夫・妻)	あなたの親	あなたの配偶者の親	兄弟・姉妹	その他	無回答
若年者	362	27.9	51.4	23.8	3.9	1.7	7.2
高齢者	2,740	71.3	7.9	3.5	4.1	2.4	13.7

(3) 家族介護時の生活場所 (若年者 P80、高齢者 P181)

〔Q1で「すでに世話をしている家族がいる」～「家族などはいるが、自分が主に世話をしなければならぬかどうかはわからない」と答えた方にお聞きします。〕

Q1-2 あなたは、かりに、家族が高齢などのために身の回りのことを自分で十分にできなくなったとき、その世話(介護)をどのようにしたいと思いますか。また、すでに世話(介護)をしている家族がいる場合、今後どのようにしたいと思いますか。(1つに○)

「できるだけ自宅で暮らしてもらいたい、寝たきりやもの忘れの症状がはげしくなったら、老人ホームなどの施設で世話をしてもらいたい」は若年者(66.3%)が高齢者(60.1%)よりも6.2ポイント高くなっている。一方、「寝たきりになったり、もの忘れの症状がはげしくなっても、最後まで自宅で世話をしたい」は高齢者(19.1%)が若年者(11.9%)よりも7.2ポイント高くなっている。

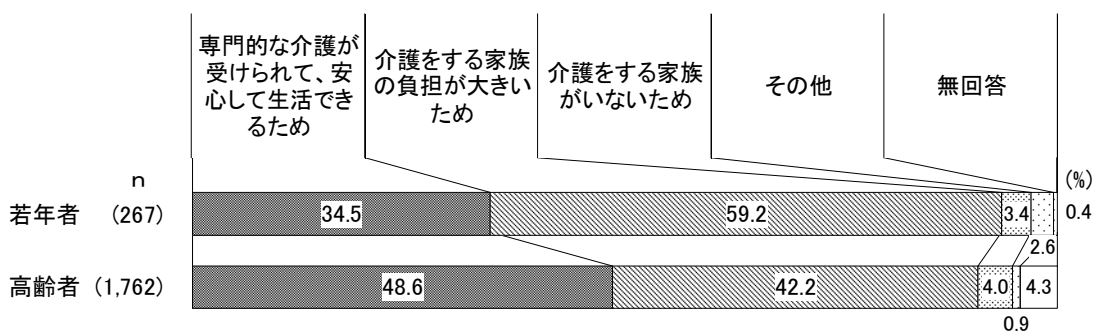


(4) 施設希望の理由 (若年者 P83、高齢者 P184)

〔Q1-2で「できるだけ自宅で暮らしてもらいたい、寝たきりやもの忘れの症状がはげしくなったら、老人ホームなどの施設で世話をしてもらいたい」または「すぐにでも、老人ホームなどの施設で世話をしてもらいたい」と答えた方にお聞きします。〕

Q1-2-1 施設等を希望される(ご自宅での世話を希望しない)最も大きな理由は何ですか。(1つに○)

「介護をする家族の負担が大きい」とは若年者(59.2%)が高齢者(42.2%)よりも17.0ポイント高くなっている。一方、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できる」とは高齢者(48.6%)が若年者(34.5%)よりも14.1ポイント高くなっている。



(5) 介護を担っている理由 (若年者 P86、高齢者 P187)

〔Q1で「すでに世話をしている家族がいる」または「将来、世話をしなければならないと思っている家族などがある」と答えた方にお聞きします。〕  
 Q2 あなたが介護を担っている (担わなければならないと思っている) 理由は、次のうちどれがあてはまりますか。(3つまでに○)

若年者は「自分の義務だと思うから」が特に高くなっている。高齢者は「自分の義務だと思うから」と「介護を受けている家族がさみしくないと思うから」がそれぞれほぼ同じ割合となっている。

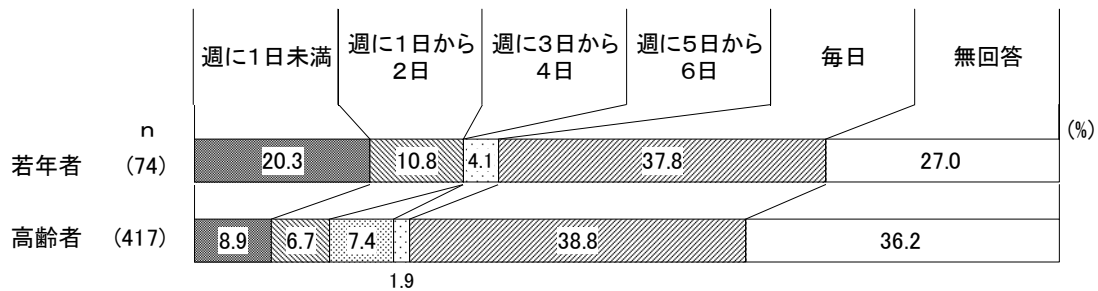
(%)

	回答者数 (人)	かきめ細かい介護ができる	さみしく受けていないと思う家族が	強く望んでいて家族が	介護を受けるから	介護が自分の生きがいになつているから	介護にたいした手間がかからないから	介護する時間が豊富にあるから	世間体や親戚の手前	自分の義務だと思うから	自分以外に介護をする人がいないから	介護サービスを利用する費用が足りないから	施設が空いていないから	その他	ないにこれといった理由は	無回答
若年者	266	10.2	36.1	11.7	1.5	0.8	1.9	3.0	53.8	30.8	5.6	6.0	3.8	2.3	12.8	
高齢者	1,801	24.9	36.8	11.4	2.5	3.2	5.0	1.1	38.8	31.5	9.2	3.5	1.1	1.8	21.4	

(6) 一週間の介護日数 (若年者 P89、高齢者 P190)

〔Q1で「すでに世話をしている家族がいる」と答えた方にお聞きします。〕  
 Q3 あなたは一週間のうち、どのくらいの日数、介護をしていますか。(1つに○)

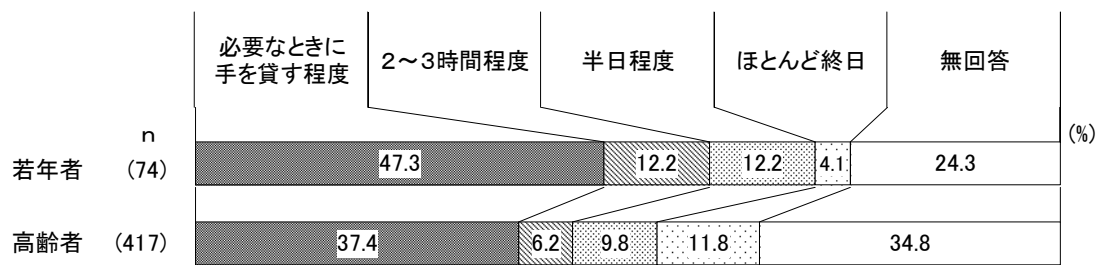
「毎日」は高齢者 (38.8%) と若年者 (37.8%) がほぼ同じ割合で並んでいる。「週に1日未満」は若年者 (20.3%) が高齢者 (8.9%) よりも高く、11.4ポイントの差となっている。



(7) 介護をしている時間 (若年者 P91、高齢者 P192)

[Q1で「すでに世話をしている家族がいる」と答えた方にお聞きします。]  
 Q4 見守りを含め介護している時間は、1日のうちのどのくらいですか。(1つに○)

「必要なときに手を貸す程度」は若年者 (47.3%) が高齢者 (37.4%) よりも高く、9.9ポイントの差となっている。一方、「ほとんど終日」は高齢者 (11.8%) が若年者 (4.1%) よりも高く、7.7ポイントの差となっている。



(8) 介護上の困りごと等 (若年者 P93、高齢者 P193)

[Q1で「すでに世話をしている家族がいる」と答えた方にお聞きします。]  
 Q5 あなたが介護を行う上で、困っていることや悩んでいることはありますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

若年者、高齢者ともに「精神的に疲れる」が最も高くなっている。若年者は「緊急時の対応が大変である」や「早朝・夜間・深夜などの対応が大変である」、高齢者は「腰痛などの身体的な負担が大きい」が高くなっている。

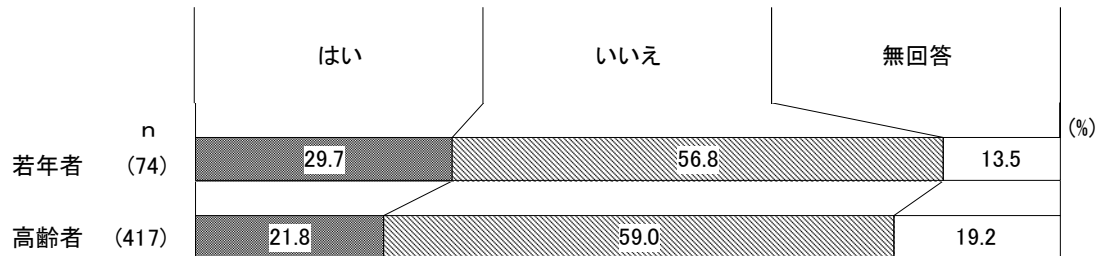
	回答者数 (人)	相談できる人がいない	相談する場所がわからない	介護の方法がわからない	応が大変である	早朝・夜間・深夜などの対応	緊急時の対応が大変である	き腰痛など身体的な負担が大きい	腰良くない	介護を行う側の健康状態が	精神的に疲れる	介護者のリフレッシュの時間	家族や近隣の方などの理解	本人が介護サービスを使い	怒鳴つてしまふこと	イライラし、本人に	本人の訴えを無視してしま	思わぬ手をあげてしま	介護に要する費用がかか	その他	特にな	無回答
若年者	74	4.1	1.4	2.7	20.3	23.0	10.8	12.2	44.6	9.5	2.7	13.5	18.9	4.1	0.0	16.2	6.8	5.4	21.6			
高齢者	417	4.8	4.6	5.3	12.5	12.0	18.9	13.2	33.8	12.0	2.6	13.9	14.4	7.4	2.9	8.4	1.4	10.1	31.2			

(9) 認知症の方を介護しているか (若年者 P95、高齢者 P195)

[Q1で「すでに世話をしている家族がいる」と答えた方にお聞きします。]

Q6 あなたは、認知症の方を介護されていますか。

「はい」は若年者 (29.7%) が高齢者 (21.8%) よりも7.9ポイント高くなっている。



(10) 認知症の方を介護する上で困っていることや悩んでいること

(若年者 P96、高齢者 P196)

[Q6で「はい」と答えた方にお聞きします。]

Q6-1 認知症の方を介護する上で、困っていることや悩んでいることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

高齢者では「介護に手間と時間がかかり、自分の時間がなくなってしまう」が最も高くなっている。若年者調査は回答者数が少ないため、参考として掲載する。

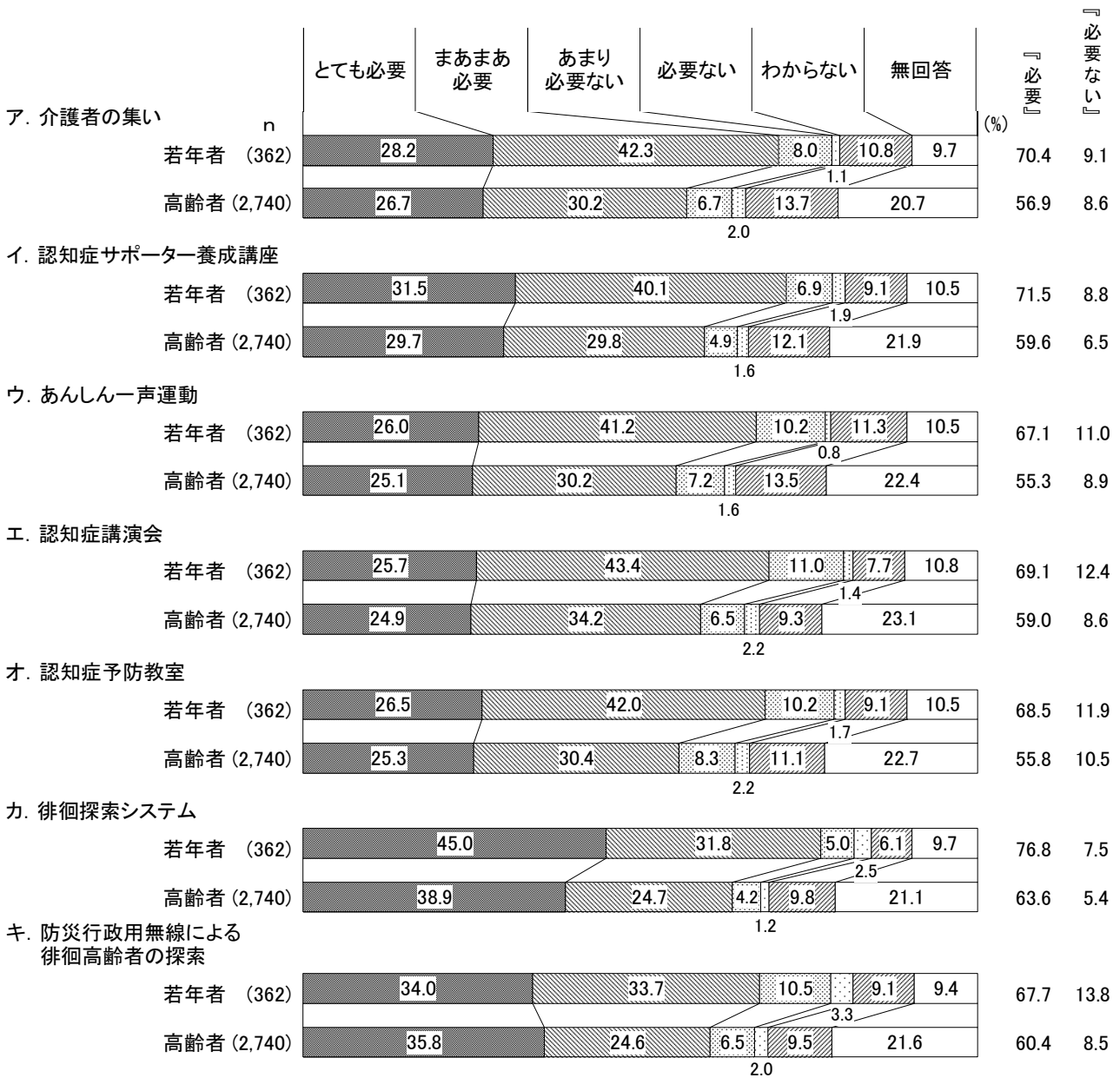
	回答者数 (人)	い症一般が理解されにくい	が医療機関から診察してもらえない(診療科)	認知症を診察してくれ	かなり、自分で分まう時間がない	介護に手間と時間がか	仕方がない	認知症の方への対応の	入施設がわからない	悪化した場合の緊急受	急激に認知症の症状が	サビ症の方への介	からできない	用年性認知症の方が	若年性認知症の方が	その他	特にな	無回
若年者	22	18.2	18.2	45.5	18.2	40.9	9.1	0.0	0.0	22.7	0.0							
高齢者	91	24.2	22.0	36.3	22.0	25.3	13.2	5.5	3.3	16.5	9.9							

(11) 「認知症対策の推進」支援策の必要度 (若年者 P97、高齢者 P197)

〔Q1で「すでに世話をしている家族がいる」～「家族などはいるが、自分が主に世話をしなければならぬかどうかはわからない」と答えた方にお聞きします。〕

Q7 松戸市では「いきいき安心プランⅢ」において、重要ポイントとして「認知症対策の推進」を掲げ、下記の支援策に取り組んでいます。今後、あなたが介護していく上で、どの程度必要だと思いますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

『必要』はいずれも若年者が高齢者よりも高くなっている。



(12) 介護を行う上で市に期待すること（若年者 P101、高齢者 P201）

〔Q1で「すでに世話をしている家族がいる」～「家族などはあるが、自分が主に世話をしなければならぬかどうかはわからない」と答えた方にお聞きします。〕

Q8 あなたが介護を行う上で、市に期待することは何ですか。（3つまでに○）

若年者、高齢者ともに「介護に関する費用負担の軽減」「困ったときに気軽に介護相談ができる場所」「介護する家族が休息をとれるようなサービスの実施」が上位3項目となっている。

(%)

	回答者数（人）	困ったときに気軽に介護相談ができる場所	介護に関するさまざまな情報の提供	家族や近隣の方への知識の講座の開催	互いに知るような場を共有できるような場を共有	介護する家族が休息をとれるようなサービスの実施	介護に関する費用負担の軽減	介護と医療との連携	認知症の対策	その他	特になし	無回答
若年者	362	61.0	28.7	3.9	14.6	52.8	64.4	32.0	0.8	1.4	0.8	4.1
高齢者	2,740	70.6	27.5	5.2	16.3	43.1	51.3	35.8	2.1	0.4	1.3	7.1

## 8. まとめと考察（いきいき安心プランⅢの見直しにむけて）

### ●隣近所とのつきあいについて

隣近所とのつきあいの程度については「親しくつきあっている人（訪問したり、悩みごとを相談するなど）がいる」と「世間話や立ち話をする程度の人はいる」は3調査の中では高齢者でそれぞれ2割超、4割台半ばと高く、「あいさつをする程度の人はいる」は若年者で4割超と高くなっている。一方、「つきあっている人はほとんどいない」は要支援・要介護認定者で約3割と高くなっている。隣近所とのつきあいは、要支援・要介護認定者で最も少ない傾向がみられる。

### ●こころのハリと生きがい等について

日常生活を送る中で「こころのハリ」や「生きがい」を『感じている』人は若年者と高齢者で7割超と高い。要支援・要介護認定者と施設サービス利用者では『感じている』人はそれぞれ約4割、約2割と低く、『感じていない』が『感じている』を上回っている。「こころのハリ」や「生きがい」を感じることは若年者では「働くこと（自営・家事等を含む）」が突出しており、高齢者では「働くこと（自営・家事等を含む）」と「テレビやラジオの視聴」が高くなっている。要支援・要介護認定者では「テレビやラジオの視聴」が高くなっている。「こころのハリ」や「生きがい」を感じることにについては、年齢や身体状態によっても差がみられる。

生活の中で不安や心配が『ある』人は若年者と要支援・要介護認定者で約7割と高くなっている。どのようなことを不安・心配に感じているかは高齢者、要支援・要介護認定者、施設サービス利用者では「自分の体調や病気について」が最も高いが、若年者では「将来の自分の暮らしの先行き（生活設計など）について」が最も高くなっている。

「こころのハリ」や「生きがい」、不安や心配の有無は、年齢や身体状態、就労などによって差がみられ、これらを考慮した施策を充実させる必要があるといえる。

### ●介護保険や権利擁護の制度について

介護保険制度の内容については、若年者、高齢者、要支援・要介護認定者によって認知度に差がみられる。どの年代の人はどの内容を知っておいた方がよいのか、身体の状態によって知っておいた方がいい内容はどれなのかなどをふまえながら、効果的に内容の周知をはかっていくべきである。

### ●認知症について

認知症の5つの内容については若年者も高齢者も認知度が高い内容、低い内容は同じであり、年齢による認知度の差はあるものの認知症の各内容の周知を更に進めていく必要がある。

認知症の予防については若年者、高齢者ともに「試したことはない」が8割台と高い。その中で認知症の予防法を『試したい』人は若年者で7割台半ばと高齢者よりも高く、若年者の方が認知症の予防法への関心が高いことがわかる。

### ●今後の生活について

今後の生活については多くの人が自宅で暮らしたいという希望を持ちつつも、「寝たきりになったりもの忘れの症状がはげしくなったら、老人ホームに入所したい」と回答している。「自宅で暮らしたい」という希望に沿うためにも、一人ひとりが“健康づくり”や“予防”を意識して自ら進んで取り組むことができるような施策を行っていくとともに、住み慣れた家庭、地域で生活が出来るよう在宅サービスの充実を図っていくことが重要である。



**●市に期待することについて**

市に対する要望としては「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やしてほしい」がどの調査でも高く、現在ある相談場所の更なる周知とともに、誰もが相談しやすい環境づくりに取り組むことが必要である。

充実すべき高齢者施策は、「いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策」「医療費の自己負担分や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策」「健康相談や介護予防教室など要支援・要介護にならないための施策」などが高く、“健康づくり”“費用”“介護予防”への関心が高いことがわかる。

介護をしている（しなければならぬと思っている理由）について「自分の義務だと思うから」と回答した割合が高い。また、介護上の困りごとについては「精神的に疲れる」がいずれの調査でも高く、介護者を支援する施策を充実していくことが課題である。

